

農作物技術情報 第3号の要約

平成30年 5月31日発行
岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<p>生育状況: 県全体の田植え盛期は平年並と見込まれる。気温・日照時間も概ね良好に経過したことから、全般に活着は良好である。</p> <p>低温対策: 低温時には深水にして保温に努める。</p> <p>技術対策</p> <ul style="list-style-type: none">○分けつ発生を促進させるため、天候に応じてこまめに水管理を行う。○目標とする茎数が確保されたら、すみやかに中干しを行う。○取置苗はいもち病の伝染源になるので、直ちに処分する。○水稲初期害虫の発生が早いので、特に直播水稲では出芽直後の食害に注意する。○大雨により浸冠水した水田では、病虫害の発生について気をつける。
畑作物	<p>生育状況: 小麦の生育は平年並。湿害等で圃場によるばらつきがあるが、概ね順調。</p> <p>技術対策</p> <p>小麦: 赤かび病防除は適期に確実に実施する。圃場での抜き穂作業も、穂が青く見やすい時期に実施する。収穫作業に備え、早めに乾燥施設との連携や収穫機械の整備などを行い、万全の体制を整える。</p> <p>大豆: 排水対策・耕起・砕土などを丁寧に行う。種子消毒・播種・除草剤の散布などは計画的に実施し、適正な栽植密度を確保する。</p>
野菜	<p>生育状況: 施設果菜類は概ね順調な生育で収穫が始まっている。露地果菜類は5月下旬～6月上旬頃が定植のピークとなる見込み。雨よけほうれんそう、露地葉菜類は概ね順調に生育している。</p> <p>技術対策</p> <p>全般: 圃場の排水対策を徹底するとともに、生育促進、施肥効率の改善等をはかるため、適時灌水を行う。</p> <p>施設果菜類: 温度・湿度管理を徹底し、草勢維持に努めるとともに、病虫害の初期防除を徹底する。</p> <p>露地果菜類: 定植後の活着促進と初期生育確保のため、土壌水分と地温の確保に努めるとともに、初期の整枝を適期に行う。</p> <p>雨よけほうれんそう: ハウスの温度管理や、圃場水分管理を適切に行い、病虫害の発生や生育不良を防ぐ。</p> <p>露地葉菜類: コナガ、ナモグリバエ等害虫の適期防除を行う。アスパラガスはL品割合を目安に収穫を終了するとともに、茎枯病対策を徹底する。ねぎは生育状況を見ながら培土を行う。</p>
花き	<p>生育状況: りんどうの生育は平年を上回っている地域が多い。小ぎくは8月咲品種で苗の不足や定植の遅れがみられた。9月咲品種は苗の数が確保され、育苗も順調である。</p> <p>技術対策</p> <p>りんどう: 乾燥時にはかん水するが、高温時は避ける。定植は適期に行う。病虫害の発生に注意し、適期防除に努める。</p> <p>小ぎく: 乾燥時にはかん水する。整枝作業が遅れないよう計画的に進める。白さび病は、採穂用親株から防除を徹底し、苗から本畑への病気の持ち込みを防止する。</p>
果樹	<p>生育状況: りんごの開花は平年より7日程度早まり、ぶどうの展葉も平年より7日程度早まった。なおりんごの結実も概ね平年並を確保できる見込みだが、地域や品種によるバラツキが大きい傾向。</p> <p>技術対策</p> <p>りんご: 今年の果実肥大と来年の花芽確保のためにも早期の着果負担軽減が大切なので、満開30日頃までには一回りあら摘果が終了できるよう、品種構成や労力等に応じた作業スケジュールを立て、計画的に摘果作業を進める。</p> <p>ぶどう: 開花が早まる見込みなので、生育の進捗を把握し、計画的に開花前後の管理を進める。</p>
畜産	<p>生育状況: 県全体で、牧草の生育は概ね平年並。</p> <p>技術対策</p> <p>牧草: 一番草の収穫・調製のタイミングは、飼料の栄養成分、収量に大きく影響するので、適期収穫を行う。</p> <p>飼料用トウモロコシ: 収量確保とサイレージの品質向上のため、除草剤の土壌処理、生育期処理を行う。虫害が発生しやすい時期となるので、早期発見に努め被害拡大を防止する。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <http://i-agri.net> (「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます)

○農薬適正使用: 使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

○春の農作業安全月間実施中(4月15日～6月15日)「農作業 ころのゆとりで 事故防止」

次号は平成30年6月28日(木)発行の予定です